村長先頭に〝村デモ〟

8/18 朝日

戦争法案ノー 世界の人のため

安倍政権が国民多数の反対の声に背を向け、強行しようとしている戦争法案の廃案を求めて、各地で集会やデモ行進が行われました。

長野・中川村

「平和な日本、平和な村をいつまでも」。16日夕、長野県の中川村で、戦争法案に反対して「村民の集い」（実行委員会主催）とデモ行進が行われました。同県では、村単位のデモが相次いでいます。

軽トラックを先頭に、ベビーカーを押したママや夫婦、送り盆を終え駆けつけた人など120人が行進。中心街での集会時には150人にふくれ上がりました。

「非核・平和宣言」の村。デモの先頭に曽我逸郎村長も立ち、集いでは「日本の若者をアメリカに差し出すわけにはいかない。武力で平和は守れない」と、憲法9条を生かした政策を訴えました。

最近東京から移ってきた夫婦が2人の子を連れて参加。父親は、「この子らのためだけに反対するんではない。世界の人が命を落とさないよう、村民として声を上げていきたい」と語りました。新規就農者を目さして2年前に神奈川県から移住した男性（31）は、「祖父母は満州（中国東北部）からの引き揚げ者。そんなことを繰り返しやってはいけない」と話していました。

集いでは日本共産党（小林伸陽県議）、民主党、社民党のメッセージが紹介されました。

は、リレートークで「日本が集団的自衛権を認めないといけないような状況にあるとは思えない」と述べました。

観光で宮崎に来てデモを知った男性（35）は「戦争法案を止めたくて参加しました。国会答弁を見ていて、屁（へ）理屈言うなと言いたくなります」と話しました。

同会は30日に3回目のデモを計画しています。

戦争法案の廃案を訴えて坂道を下る「村デモ」。先頭には曽我村長（右から2人目）も＝16日、長野県中川村

戦争法案の廃案を求めて行進する参加者＝15日、横浜市中区

横断幕を掲げて行進する若者デモの参加者＝16日、熊本市

日本人として憲法守る

横浜で市民アクション

憲法改悪反対・神奈川県共同センターは15日、横浜市中区で「『戦争法案』NO 市民アクションYokohama」に取り組みました。集会とデモには約400人が参加しました。

「今の政権になってモノが言えない、嫌な世の中になってきた」と語る男性（34）＝相模原市南区＝は、行動をインターネットで調べて友人に参加を呼び掛けました。三重県から帰省中の大学同期の男性（34）が応じて参加。「憲法だけは日本人として守りたい」と2人で歩きました。

戦争法案は「次の戦争に及ぶ過程かも」と不安を抱える藤沢市の女性（31）は「居ても立ってもいられなくて」と初めてデモに参加。「なんとしても止めたい」と話しました。

娘と息子の手を引いた横浜市旭区の女性（39）は、母親から誘われ、市内で2日に開かれたデモに続いての参加。「子どもたちが戦争で死んでしまうことや、人を殺すことはいやだ。絶対に止める」と述べました。

日本共産党から畑野君枝衆院議員と椎葉かずゆき（比例）、あさか由香（神奈川選挙区）の両参院候補が参加し、畑野氏は「県民、市民のたたかいを空前の規模で広げ、戦争法案絶対廃案へ頑張りましょう」と訴えました。

若者〝廃案諦めない〟

熊本 九条での国際貢献を

熊本市の繁華街で16日、地元の学生を中心とするグループ「WDW@熊本」が呼びかけた「戦争法案絶対反対×若者デモ」が行われました。

アーケード街を、500人の参加者が「憲法守れ」「戦争法案、なんさん（とにかく）反対」とコールしながら歩きました。

デモに先立つ集会で、同グループの井田高史さん（21）が「戦争に行きたくない人は利己的だ』と言われて、本当に腹が立ちます。僕たちは絶対にあきらめません」と訴えると、参加者から大きな拍手と声援がおくられました。

連帯のあいさつに立った熊本大学の三澤純准教授は「若い人たちが、憲法9条のもとでの国際貢献について、真剣に学びあい、議論することが大事です。ともにたたかいましょう」と呼びかけました。

宮崎市でも

民青同盟宮崎県委員会は16日、宮崎市中心部で、2回目の「若者憲法DEMO@宮崎」をしました。

小雨の降る中、参加者は「安倍首相はチェンジ」などのプラカードを持ち、「憲法守れ」「憲法蹂躙めない政治家いらない」「おわびも言えない総理はいらない」とシュプレヒコールしながら市内の大通りを歩き、アピールしました。

帰省中にデモを知って参加した男性（32）